

3 子ども・子育て支援事業計画に係る調査の結果

計画の策定にあたり、子育て支援に関する市民の「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握し教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業等の必要量の見込み、確保方策を検討するための基礎資料とするために、アンケート調査を実施しました。調査概要は以下のとおりです。

(1) 調査の概要

調査対象	(1) 市内在住の就学前児童がいる世帯 3,000 世帯 (2) 市内在住の就学児童（小学校1～3年生）がいる世帯 1,000 世帯 (コミュニティセンターエリア・年齢階層別に住民基本台帳から無作為抽出)
調査期間	平成 30 年 12 月 21 日から平成 31 年 1 月 25 日まで ※ 調査期間を平成 31 年 1 月 18 日から 1 週間延長
調査方法	郵送による配布・回収

【回収率】

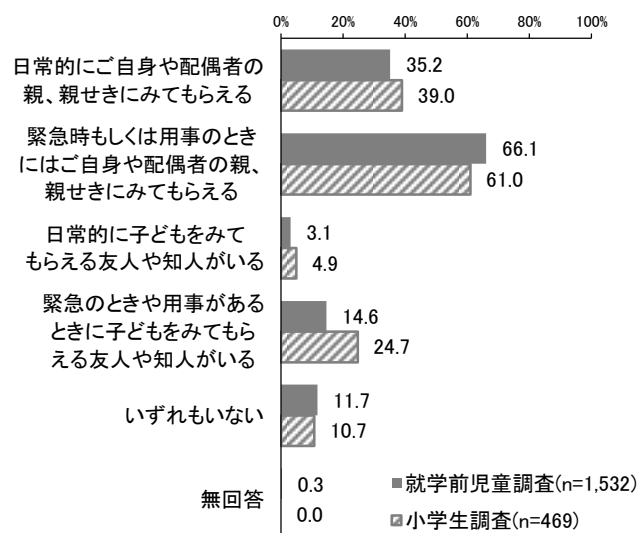
	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
就学前児童がいる世帯	3,000 通	1,533 通	1,532 通	51.1%
就学児童がいる世帯	1,000 通	469 通	469 通	46.9%
合計	4,000 通	2,002 通	2,001 通	50.0%

(2) ニーズ調査の結果

ア 子どもをみてもらえる親族・知人

「緊急時もしくは用事のあるときにはご自身や配偶者の親、親せきにみてもらえる」の割合が最も高く（就学前児童 66.1%・小学生 61.0%）、次いで「日常のご自身や配偶者の親、親せきにみてもらえる」（就学前児童 35.2%・小学生 39.0%）の順となっており、「いずれもない」と答えた人は就学前児童調査で 11.7%、小学生調査で 10.7%となっています。

【就学前児童調査・小学生調査】

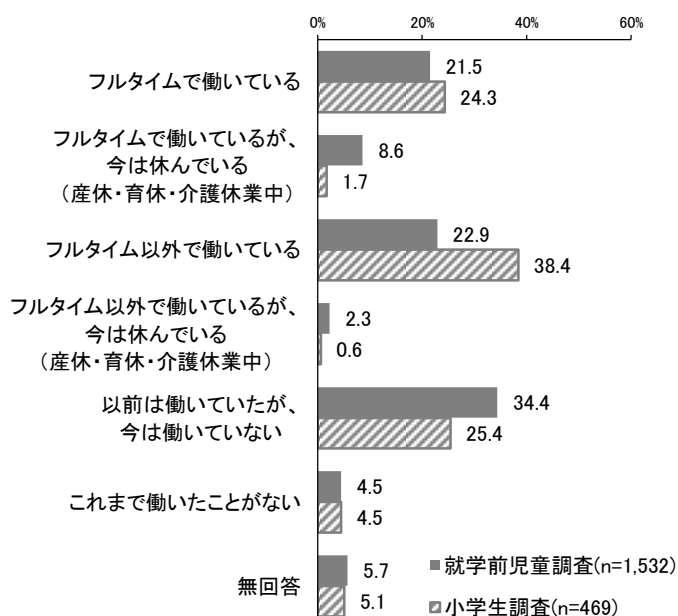


イ 母親の就労状況

就学前児童調査では、「以前は働いていたが、今は働いていない」の割合が 34.4%で最も高く、次いで「フルタイム以外で働いている」の割合が 22.9%、「フルタイムで働いている」の割合が 21.5%となっています。

小学生調査では、「フルタイム以外で働いている」の割合が 38.4%と最も高く、次いで「以前は働いていたが、今は働いていない」の割合が 25.4%、「フルタイムで働いている」の割合が 24.3%となっています。

【就学前児童調査・小学生調査】



(3) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

ア 平日に利用している教育・保育事業

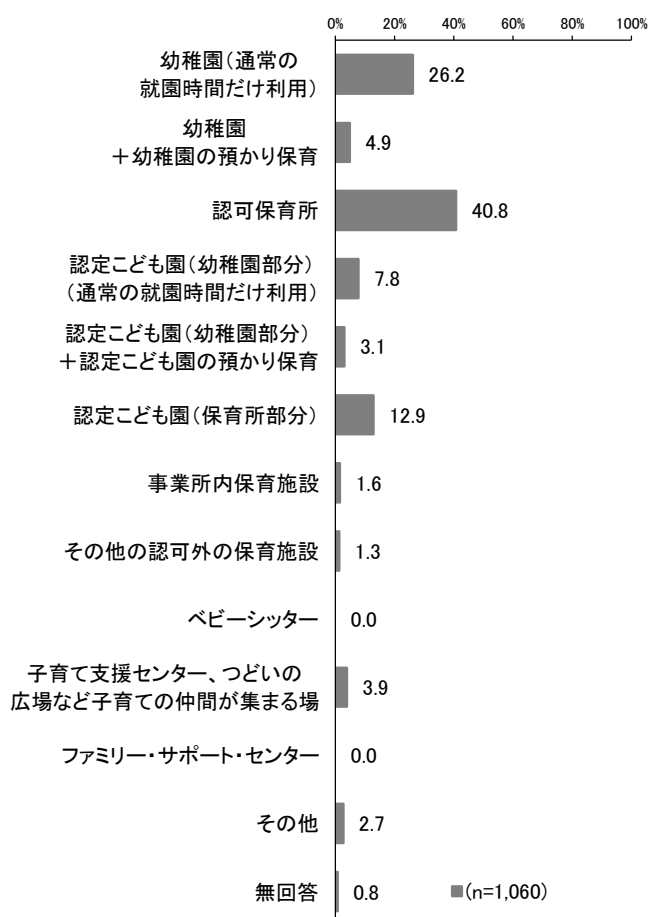
幼稚園や保育所等を定期的にご利用している就学前児童のうち、「認可保育所」の割合が40.8%と最も高く、次いで「幼稚園（通常の就園時間だけ利用）」の割合が26.2%、「認定こども園（保育所部分）」の割合が12.9%となっています。

イ 平日に利用したい教育・保育事業（複数回答）

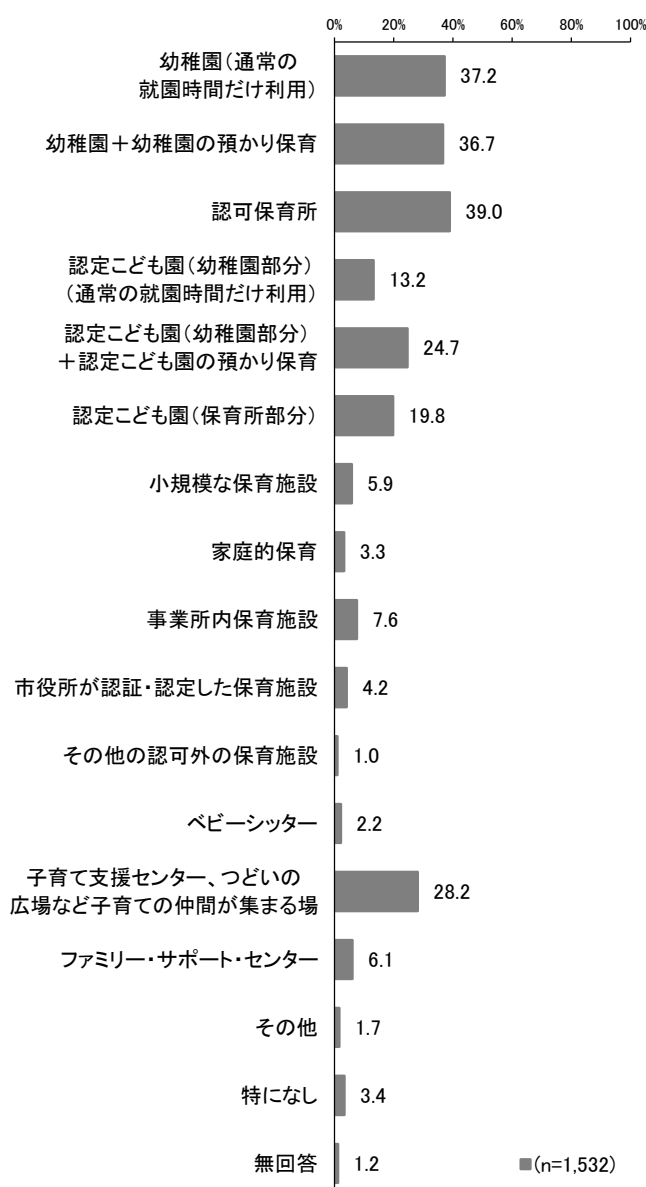
現在、利用している、利用していないにかかわらず、子どもの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業については、「認可保育所」の割合が39.0%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が37.2%、「幼稚園+幼稚園の預かり保育」の割合が36.7%となっています。

【就学前児童調査】

①平日に利用している教育・保育事業



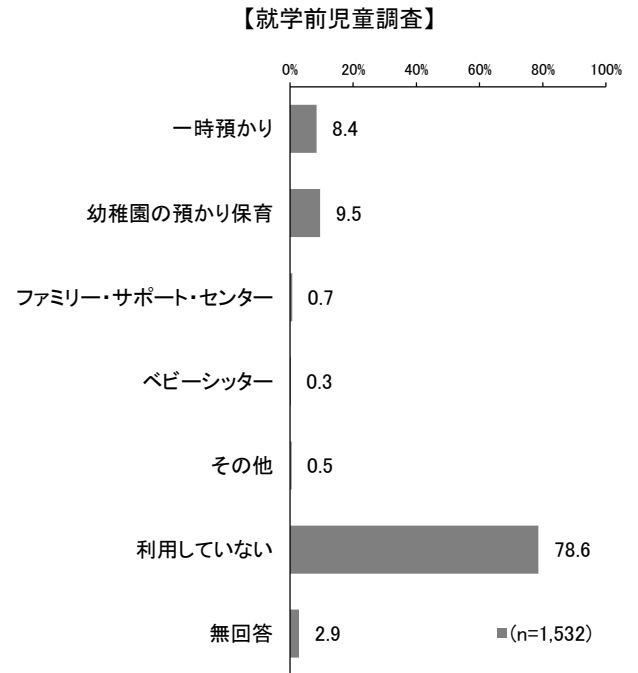
②平日に利用したい教育・保育事業



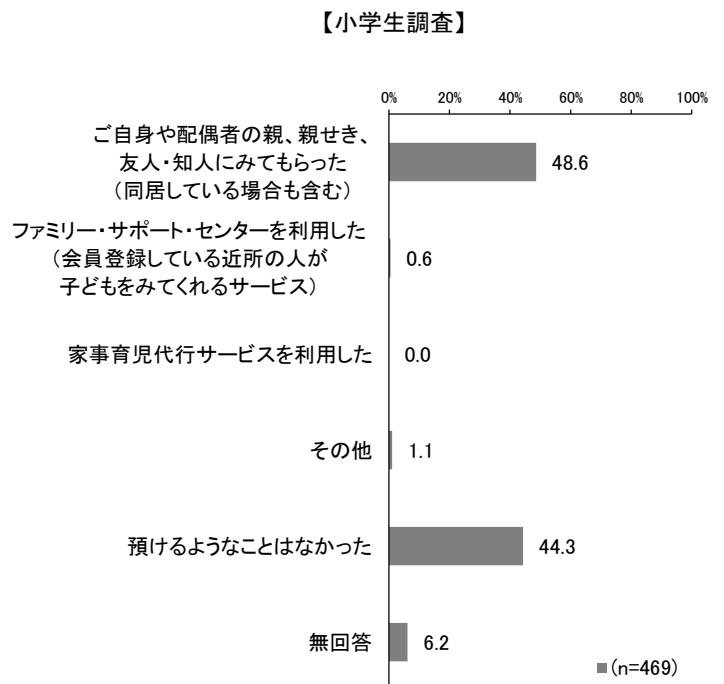
(4) 一時預かり事業等の利用状況について

ア 不規則な一時預かり事業等の利用状況

就学前児童調査で、日中の定期的な教育・保育以外に、私用、保護者の通院、不規則の就労等の目的で不規則に利用している事業については、「利用していない」の割合が78.6%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」の割合が9.5%、「一時預かり」の割合が8.4%となっています。



小学生調査で、私用、保護者の親の通院、不規則な就労等を理由に子どもを家族以外の誰かに一時的に預けたことがあるかについては、「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった（同居している場合も含む）」の割合が48.6%と最も高く、次いで「預けるようなことはなかった」の割合が44.3%となっています。



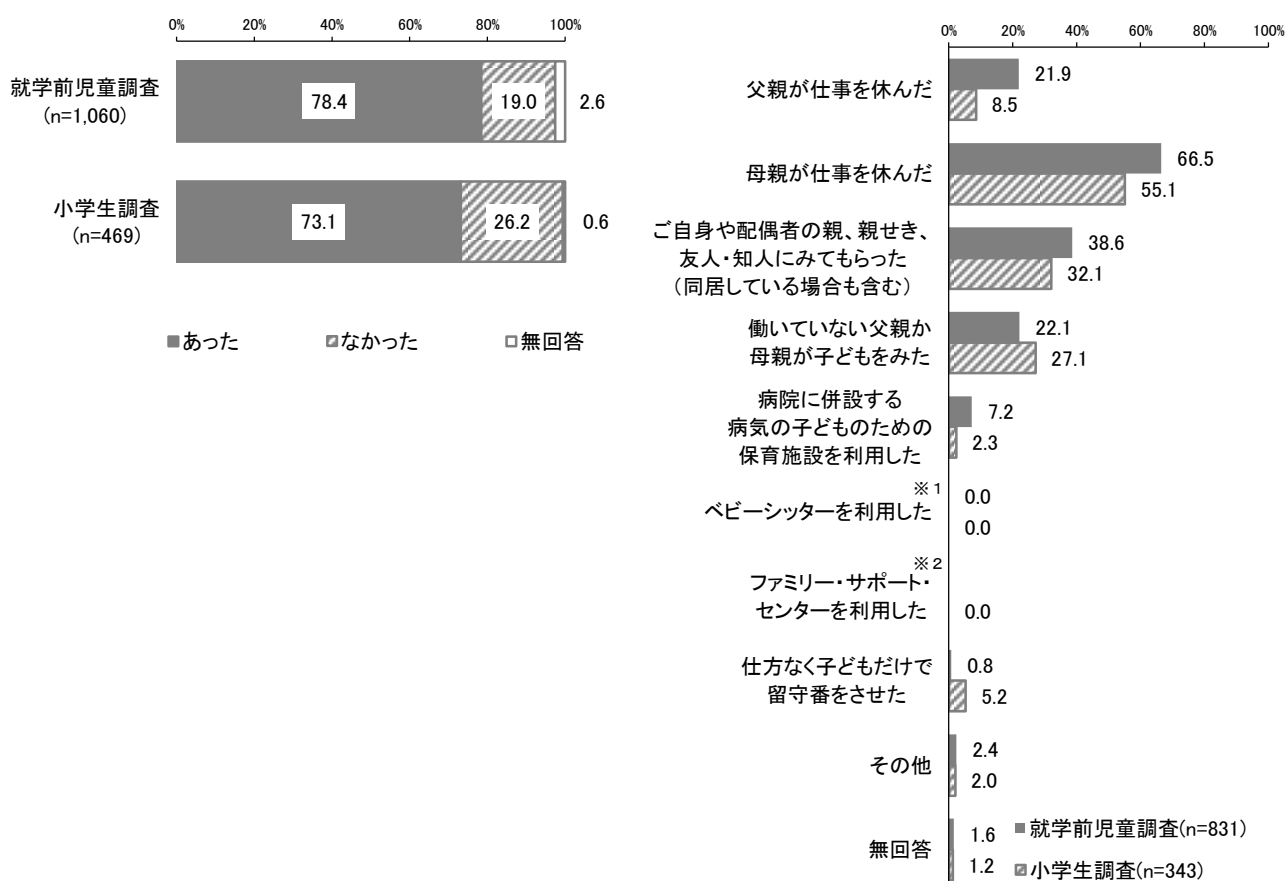
イ 直近の1年間に病気等で幼稚園や保育所の通常の事業が利用できなかったこと、小学校を休まなければならなかったことの有無とその主な対処方法

就学前児童の家庭で、1年間に、子どもが病気やけがで幼稚園や保育所等の通常の事業が利用できなかったことが「あった」割合は、78.4%となっています。

また、小学生の家庭で、小学校を休まなければならなかったことが「あった」割合は、73.1%となっています。

対処方法としては、就学前児童調査・小学生調査ともに、「母親が仕事を休んだ」の割合が最も高く（就学前児童 66.5%・小学生 55.1%）、次いで「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった（同居している場合も含む）」（就学前児童 38.6%・小学生 32.1%）、「働いていない父親か母親が子どもをみた」（就学前児童 22.1%・小学生 27.1%）、「父親が仕事を休んだ」（就学前児童 21.9%・小学生 8.5%）の順となっています。

【就学前児童調査・小学生調査】



※1 小学生調査では「家事育児代行サービスを利用した」
 ※2 小学生調査のみの項目

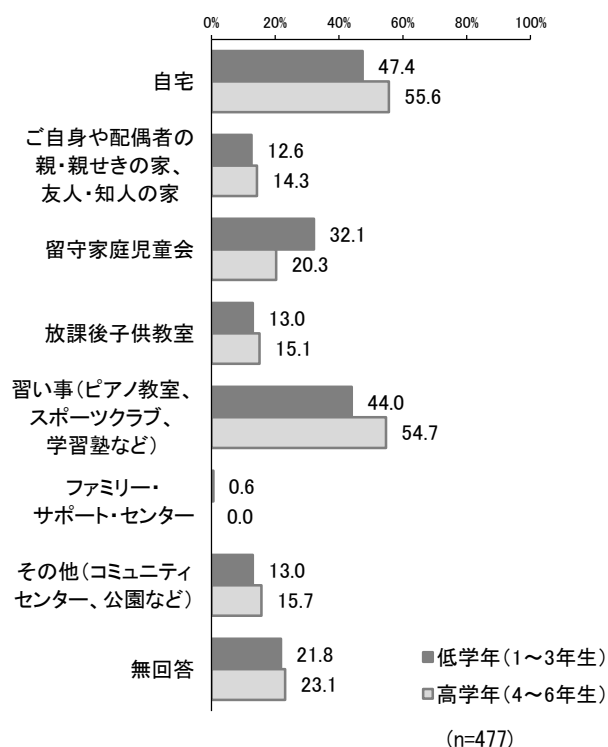
(5) 小学校就学後における放課後の過ごし方について

ア 保護者が希望する子どもが小学校に就学してからの放課後の過ごし方

5歳児の保護者が希望する小学校就学後における放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方についてみると、低学年(1~3年生)の間は、「自宅」の割合が47.4%と最も高く、次いで「習い事」の割合が44.0%、「留守家庭児童会」の割合が32.1%となっています。

高学年(4~6年生)の間は、「自宅」の割合が55.6%と最も高く、次いで「習い事」の割合が54.7%、「留守家庭児童会」の割合が20.3%となっています。

【就学前児童調査(5歳児)】

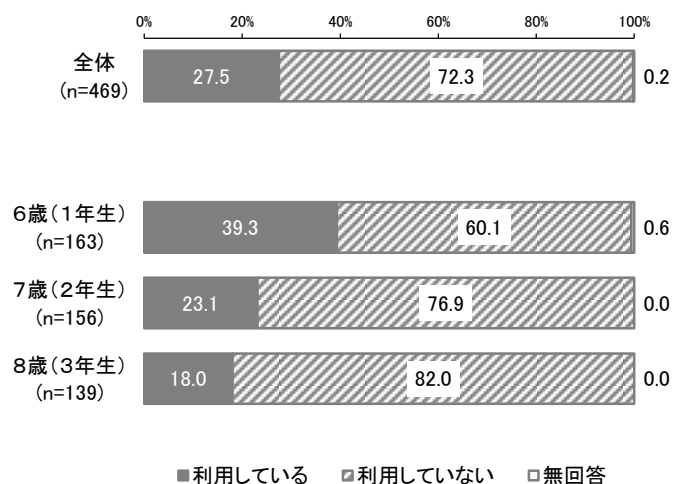


イ 留守家庭児童会の利用状況

小学生調査における留守家庭児童会の利用状況は、「利用している」の割合が27.5%、「利用していない」の割合が72.3%となっています。

子どもの年齢別にみると、6歳(1年生)で「利用している」の割合が高く、約4割となっています。

【小学生調査】



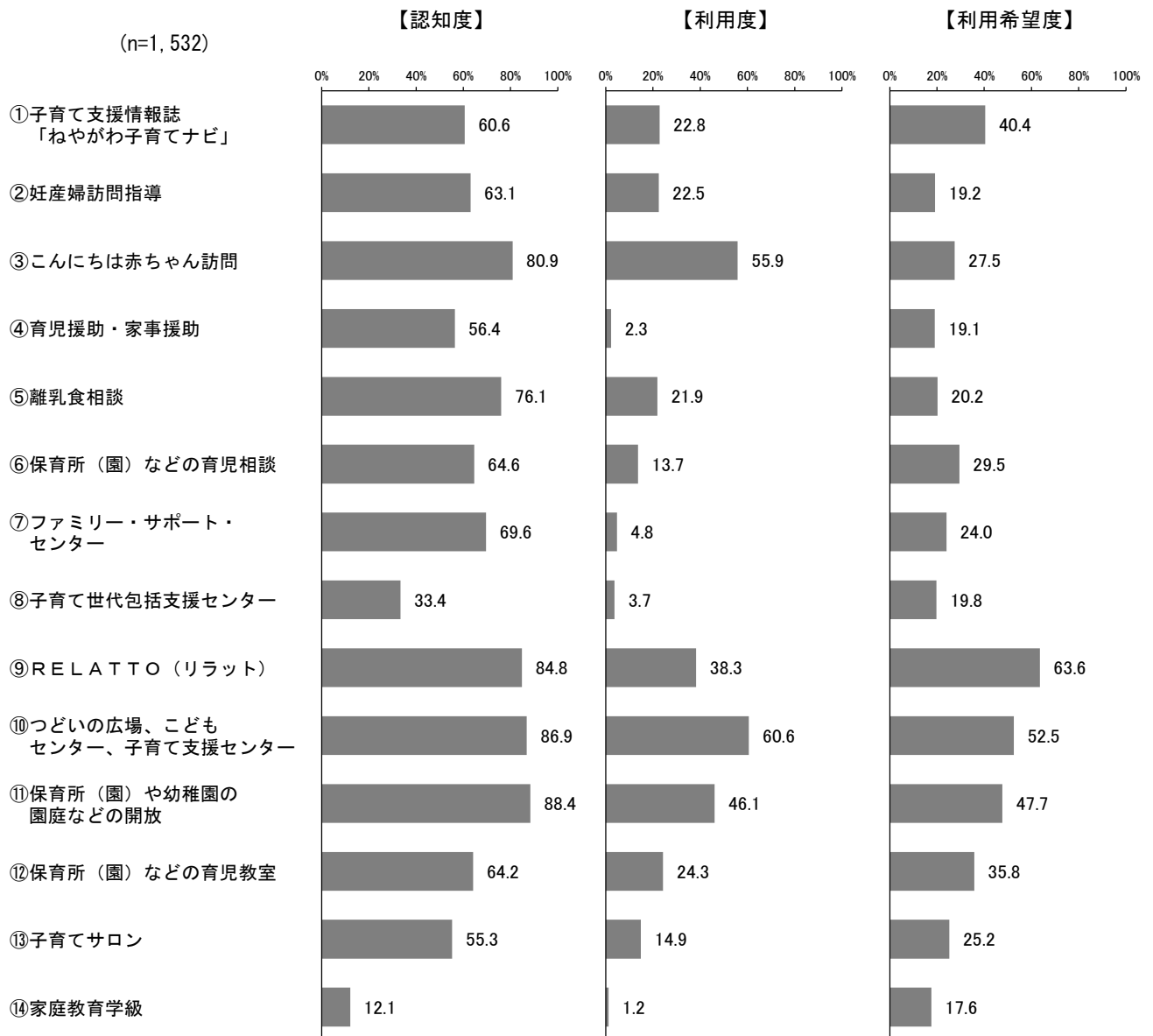
(6) 子育て支援事業の認知度・利用度・利用希望度

子育て支援事業については、「こんにちは赤ちゃん訪問」、「RELATTO（リラット）」、「つどいの広場、こどもセンター、子育て支援センター」、「保育所（園）や幼稚園の園庭などの開放」を「知っている」と答えた人が8割を超えています。

利用したことがある人は、「こんにちは赤ちゃん訪問」、「つどいの広場、こどもセンター、子育て支援センター」で、約6割となっています。

今後の利用希望については、「RELATTO（リラット）」、「つどいの広場、こどもセンター、子育て支援センター」で、5割を超えています。

【就学前児童調査】

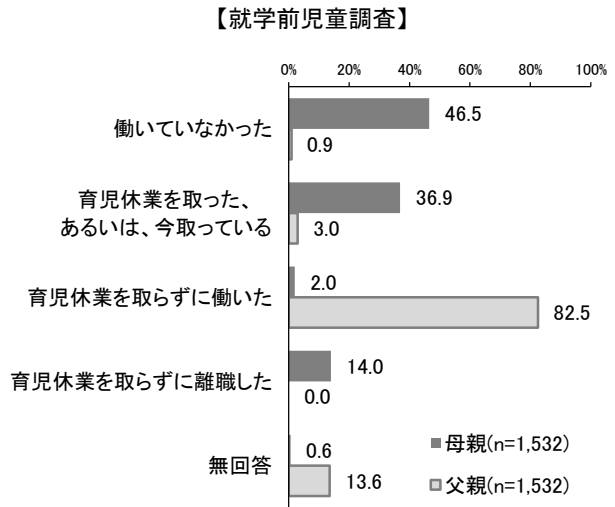


(7) 育児休業など職場の両立支援制度について

ア 育児休業の取得状況と取得期間

(ア) 育児休業の取得状況

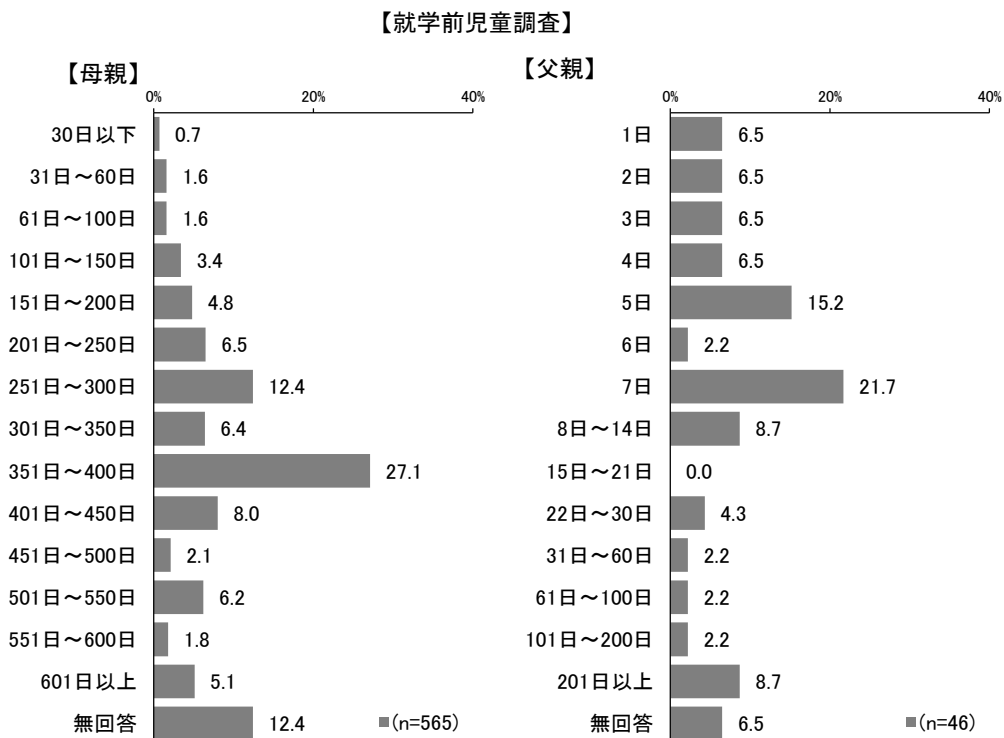
就学前児童調査において、「育児休業を取った、あるいは、今取っている」と答えた人は、母親が36.9%、父親は3.0%となっています。



(イ) 育児休業の取得日数

育児休業の取得日数は、母親については、「351日～400日」の割合が27.1%と最も高く、次いで「251日～300日」の割合が12.4%となっています。

父親については、「7日」の割合が21.7%と最も高く、次いで「5日」の割合が15.2%となっています。

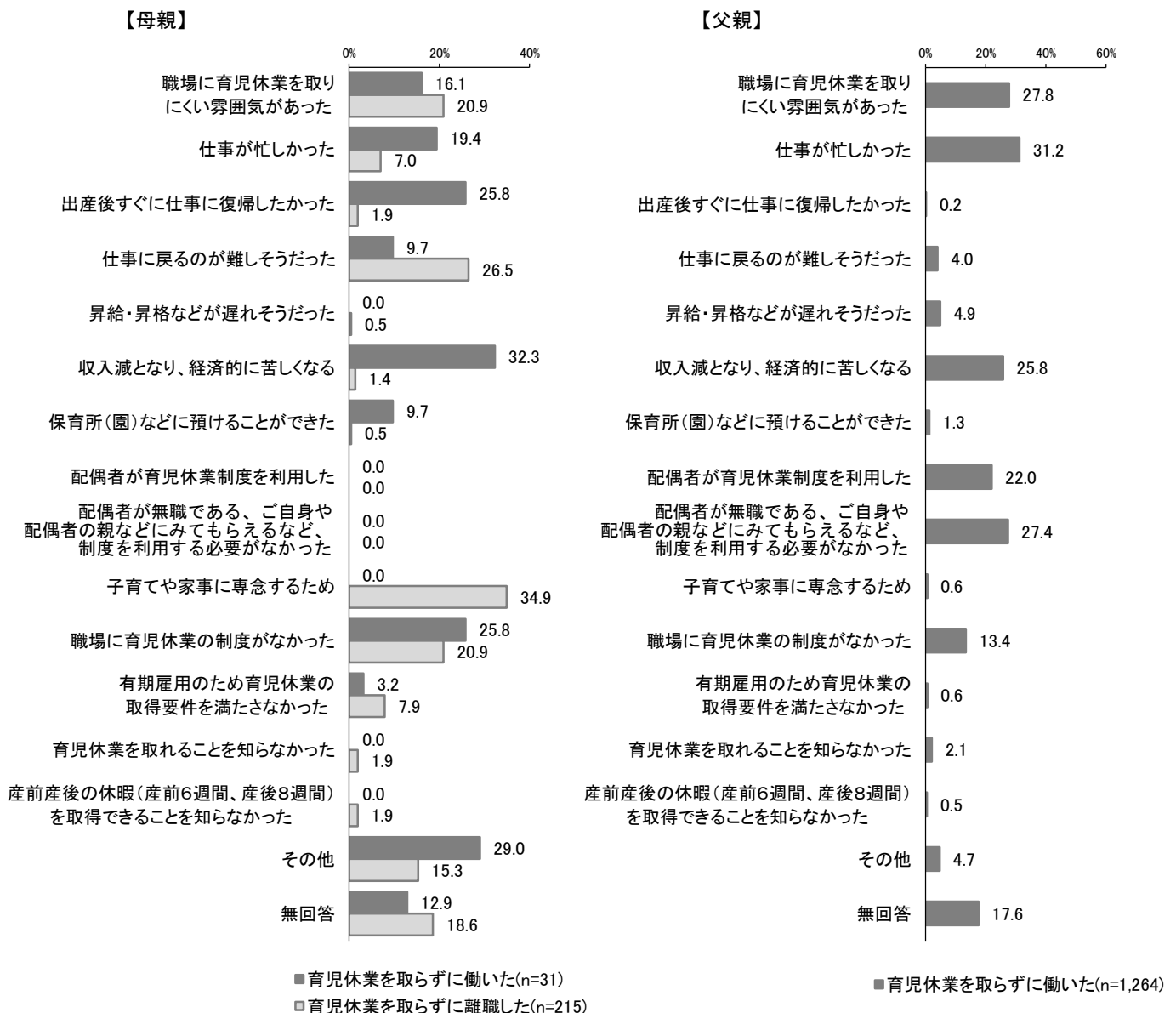


イ 育児休業を取得しなかった理由

母親が育児休業を取らずに働いた理由は、「収入減となり、経済的に苦しくなる」の割合が32.3%と最も高く、次いで「その他」の割合が29.0%、「出産後すぐに仕事に復帰したかった」と「職場に育児休業の制度がなかった」の割合がともに25.8%となっています。育児休業を取らずに離職した理由は、「子育てや家事に専念するため」の割合が34.9%と最も高く、次いで「仕事に戻るのが難しそうだった」の割合が26.5%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」と「職場に育児休業の制度がなかった」の割合がともに20.9%となっています。

父親が育児休業を取らずに働いた理由は、「仕事が忙しかった」の割合が31.2%と最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」の割合が27.8%、「配偶者が無職である、ご自身や配偶者の親などにみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」の割合が27.4%となっています。

【就学前児童調査】



ウ 1日あたりの子どもと過ごす平均時間

1日あたりの子どもと過ごす平均時間は、就学前児童調査の母親では、平日が8.4時間、休日が13.7時間、父親では、平日が2.3時間、休日が11.7時間となっています。

小学生調査の母親では、平日が5.6時間、休日が12.8時間、父親では、平日が2.1時間、休日が10.6時間となっています。

【就学前児童調査・小学生調査】

	母親		父親	
	平日	休日	平日	休日
就学前児童調査	8.4	13.7	2.3	11.7
小学生調査	5.6	12.8	2.1	10.6

(時間)

エ 子どもと一緒に過ごす時間は十分だと思うか

子どもと一緒に過ごす時間について、「十分だと思う」又は「まあまあ十分だと思う」と答えた人の割合をみると、休日については母親で約9割(就学前児童92.7%・小学生87.9%)、父親でも約7割(就学前児童74.1%・小学生65.6%)と高くなっています。

一方、平日については、母親は約7割(就学前児童71.8%・小学生67.4%)が「(まあまあ)十分だと思う」と感じているのに対し、父親は3割未満(就学前児童26.0%・小学生29.0%)にとどまっています。

【就学前児童調査・小学生調査】

